



総務部 技術管理課長 前田 隆志

TAKASHI MAEDA



今月のあの人

PERSON

今回は、総務部技術管理課の前田課長にお話を伺いました。前田課長の社会人人生は、その後も語り継がれることになる「第七建設事務所」からスタート。多くの現場で、建設局事業の節目となるような思い出深い体験をされ、今に至ります。その優しいほほ笑みからは、懐の深さと、みんなに慕われる人柄がにじみ出ていて、終始、温かな空気感に包まれたインタビューとなりました。



放射第5号線 交通開放時の航空写真



技術管理課長

前田 隆志

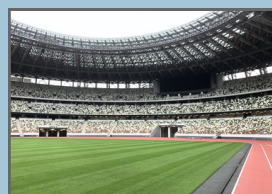
TAKASHI MAEDA

略歴

平成元年度入都。最初の配属は第七建設事務所目黒工区。道路管理部保全課、水道局などを経て、平成17年度より第二建設事務所。その後、平成19年度に北多摩南部建設事務所で用地取得に携わる。平成21年度には、道路建設部計画課にて首都高中央環状線の山手トンネル開通事業を経験。そののち、道路管理部、南多摩東部建設事務所等を経て、平成30年度に第三建設事務所。令和2年度からはオリパラ組織委員会も経験。道路管理部を経て、令和6年度より現職。

趣味

・スポーツ観戦（特にサッカー）
最近では忙しくて中々観戦できていませんが、サッカーなどのスポーツを現地で観るのが好きです。



国立競技場

スタジアム内
選手入場エリアの壁面の写真



あの頃の自分

THOSE DAYS

用地業務を経験した時代

私は、平成19年度の北多摩南部建設事務所で武蔵野3・4・24号線等を担当しており、そこで用地業務を経験しました。つい先日、車窓から現場を見たのですが、着実に用地取得が進み、道路が構築されていて感動しました。現在も事業中と聞いていますが、もうひと踏ん張りですね。当時の私にとっては初めての用地取得業務で、折衝（アボ取り、過去経過確認、説明資料準備）や土地評価、物件評価など日々奮闘していました。同じ路線でも、都市計画法に基づく整備区間と、道路法に基づく整備区間が道路の前後で分かれていたので、それぞれに該当する地権者の方に適切な説明をするよう、特に気を配っていました。

業務は、ペアが力をあわせ助け合いながら進めていて、時には隣の係長と一緒に折衝に行ってくれたり、課長に同行して頂いたり、ペアだけでなく、チーム全体で助け合って仕事をしていました。契約が締結できたときには、初めて経験するような喜びと達成感と安堵感が一度に自分に襲い掛かってきた感覚は今でも覚えています。



武蔵野3・4・24号線

土木職として用地業務を担当することについて

長年用地折衝で場数を踏んでいる方々を見て感じたのは、関係人の立場に立って人と人とのやり取りができる「折衝のプロ」だ、ということでした。中でも、素晴らしいと感じたのは、私は土木職として道路の完成形や専門用語を理解していますが、事務職の方も目の前の道路がどのようになるのか同じ用語で分かり合える。事務も土木も共通言語で会話できている、ここに垣根がない一体感というものを感じましたね。

最近は、以前よりさらに用工連携の重要性も増していて、各事務所単位で連携を深めるための会議も増えています。例えば、交差点周りの用地をまとめて早く取得できると、ある一定区間の工事でも早く進められるので、事業戦略を考えて目標を定め、効率よく交渉するという取組もあると聞いています。これは用工連携の賜物ですね。

用地の仕事を経験できたことは、自分の知識・経験が深まっただけでなく、折衝力など、あらゆる面で自分が成長できる機会だったと感じます。とても大変な仕事ですが、みんなで同じ方向を向きながらの毎日は、達成感とやりがいを感じて日々だと思っています。

放射第5号線の道路開通に立ち会えた瞬間

平成30年度に第三建設事務所に配属になったのですが、ここで放射第5号線の道路開通に携われたことは、とても印象深い出来事でした。開通まで残り2年という時期だったのですが、事務所全体が、開通に向けて一致団結していました。着任時点では、高速道路会社や関係機関との協議も継続中で歩道舗装の仕様についても検討事項が残っていて、最終工程に向けてまだ複数の工事を発注しているような状況でしたが、専門課長をはじめ、課内の皆が、自分の業務を越えて、設計・調整・監督など、この事業をやり遂げるのだという一体感がありました。もちろん、本庁所管部の強力なバックアップ、さらには同時期の交通開放となった北多摩南部建設事務所の三鷹3・2・2事業メンバーとの連携なくては語れないことで、本当に多くの方々が繋いでくれた事業を進めているのだということを考えると、開通時の感無量な気持ちは格別でした。



東京都市計画道路放射第5号線 開通式

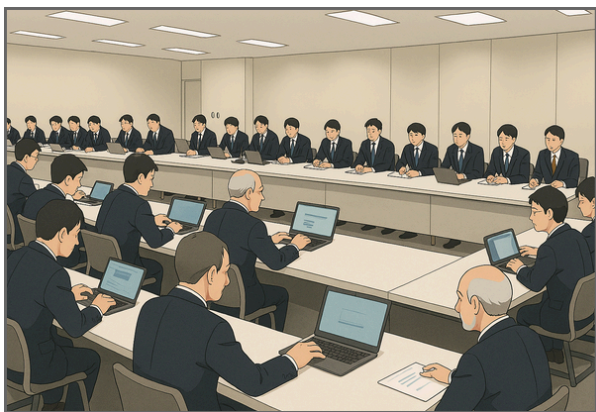
開通後に喜びまた二つ

放射第5号線の開通で、さらに嬉しかった出来事があります。この案件が、令和元年度の東京都職員表彰において、政策課題部門で知事表彰を受賞したこと、そして第33回全国街路事業コンクールで優秀賞を受賞したことです。知事表彰では、事業者として工事課の職員だけでなく用地課の職員の皆さんも登録させていただき、数多くの事業の中からこれまでの功績などを踏まえ、一緒に受賞できたことが特に嬉しい出来事でした。また、優秀賞受賞に際しては、当時私はオリパラ組織員会に異動していたのですが、私の手元に掲載冊子を届けてくれた配慮がとても嬉しかったです。

放射5号線の開通前のウォーキングイベントでは地元の方が約1,000名、開通式には約100名の方が参加するなど、地域全体から注目度の高い事業でした。一方で道路開通に向けては、（計画道路に位置して移転することになった）多くの方の生活に変化をもたらしたということも忘れてはならないことだと思っています。



東京都市計画道路放射第5号線、三鷹都市計画道路3・2・2号 東京八王子線整備事業は、区部と多摩地域のアクセス向上の整備効果が評価されて「全国街路事業コンクール」で優秀賞を受賞



昨年度、業界団体との意見交換風景のイメージ

技術管理課長として今見える景色

令和6年度から総務部技術管理課長を担っています。建設業界において「働き方改革関連法」施行による2024年問題が注目されている中、局事業に関わる設計等委託業務・工事の基準作成等を行っている部署としては、身を引き締めて業務に当たっています。具体的には、工事関係書類の削減・簡素化や建設現場におけるICT導入の幅を広げるなど、世の中の流れに合わせて基準を改定しています。これらの業務についても、先輩たちが仕組みを作ってくれているので、それを引き継いで形にしていけることができます。

国の動向に注視するとともに業界団体と意見交換を行いながら、現場の実態を基準や取組に反映していくわけですが、現場を知った上でこの仕事をできるのは、とても意味があると思います。それぞれの項目の意味やプロセスを理解している立場で、品質確保を重視した基準を作っていけるよう尽力することが、都民サービスの向上にもつながると感じています。

熱量を持って取り組むことを大切に

局内の様々な現場で事業に携わってきましたが、私の最初の憧れは目黒工区長でした。新卒で、第七建設事務所の目黒工区に配属になったのですが、実はこの第七建設事務所は、今はもうありません。私が入都したときに、二建、三建から一部の所管区を分ける形で130人くらいでスタートした事務所でしたが、平成17年にまた統合されてしまっていました。私は、目黒工区長の人柄や業務への取組姿勢などに憧れて、工区長のようになれるよう頑張りたいと、憧れの背中を見ながら、熱い想いを持って仕事をしてきました。

それから色々な経験をし、今、技術管理課長として仕事をする中でも、現場で感じた肌感覚を持ち続けたいと思っています。複数の業界団体とのやり取りの中で、それぞれの意見を聴く際にも、現場をイメージしながら聞くと、個々の話を熱量、温度感を感じながら聞くことができます。だからこそ、こちら一歩踏み込んで、熱量を持って取り組みたい。そうすることで、現場が使いやすく、わかりやすい基準等に反映していくことができたらな、と思っています。



提供：首都高速道路株式会社

道路建設部時代に首都高新宿線の開通に携わっていました。当時は構造物の規模の大きさ、大橋ジャンクションの整備手法や道路線形・構造に圧倒されましたが、今では欠かせない道路となっていますね。

建設局事業について

建設局には多くの現場があり、現場を第一に考える主義の局だと思います。よく、海外視察の方が、東京の街にゴミが落ちていないこと、道路がきれいなことに驚かれますが、それは現在の事業を着実に推進しているとともに夜通し働いている人も含めて、非常にきめ細やかな維持管理を行っているからこそ。現場があるということは、住んでいる人のことを考えられるということであり、課題の解決策につながるチャレンジ、工夫ができる、ということです。建設局は、仲間意識が強く、色々な人が助け合いながら事業を推進している、絆が強い局です。私も、皆で連携しながら、目の前のことを一歩ずつ進めていけたらと思っています。



仕事のモチベーションを上げる活動



取材を終えてひとこと



退職までもう少しありますが、自分のことを振り返るいい機会になったと考えています。入都当時は、今のようにパソコンは無く、書類は手書き、もしくはワープロで作成し、簡単な設計図面は製図台を使って手書きで作成していました。積算システムが課に1台しかなく積算時間も1時間はかかった記憶があります。現在の積算時間は数秒ですかね。

用地業務は約15年前ですが、今回の寄稿にあたり当時のパートナーとあの頃話で盛り上がることで、また、初心者係長で迷惑をかけましたが一緒に進めてくれたことに改めて感謝したところです。

振り返ると上司、先輩はもちろん、同期や同じ学校の方々などたくさんの方に助けられながら色々な事業に携われたことが自分の財産になっていると思います。これからも皆さんと協力しながら事業などを進めていきたいと思っています。



TOPICS 縁の下の方たち～技術管理課～



世の中の動きに合わせて基準を見直していく先導集団



集合写真@本庁5階レッドカーペットにて

技術管理課は土木職12名、電気職3名、機械職1名、建築職5名とアシスタントさん、合わせて22名。多様な業種の職員が集まっている部署。庁内各局や国や関係業界団体とも連携しながら基準等の策定・見直しを行うなど、縁の下の方たちとして、局事業を支えています。国の基準がすべてベースになっているのかと思って尋ねてみると、都の基準が全国的に進んでいる分野では、都が定めた基準が全国標準になることもあるとのこと。例えば、東京オリ・パラの時に話題となった、道路の路面温度の上昇を抑制する「遮熱性舗装」の技術は都が先行して使用し、全国に広がったのだとか。日々、局事業の推進のために、知恵を出し合って、誠実に「基準」と向き合っている専門家部署なのです！



次号のONE TEAM 建設局 特集について

NEXT

次回は「用地のレジェンド」です。お楽しみに。